

1.	②	11.	④	21.	④	31.	②	41.	③
2.	②	12.	④	22.	④	32.	③	42.	④
3.	①	13.	③	23.	③	33.	②	43.	③
4.	③	14.	④	24.	④	34.	①	44.	②
5.	④	15.	④	25.	②	35.	④	45.	②
6.	①	16.	④	26.	①	36.	③	46.	④
7.	③	17.	③	27.	①	37.	②	47.	③
8.	②	18.	④	28.	③	38.	③	48.	②
9.	④	19.	③	29.	①	39.	④	49.	④
10.	②	20.	④	30.	①	40.	④	50.	②

1.

解答 ②

【解説】

英単語「surgery」は、「手術」という意味の不可算名詞です。病気や怪我を治療するために、医師が患者の体を切開して行う医療行為を指します。例えば、「手術を受ける」は **have/undergo surgery** と表現します。選択肢①「香料、香水」は **perfume**、③「表面」は **surface**、④「調査」は **survey** であり、意味が異なります。

◆補足：イギリス英語では、**surgery** は「(開業医の) 診療所、診察時間」という意味でも使われます。関連語として **surgeon** (外科医) があります。**operation** も「手術」という意味で使われ、**have an operation** のように可算名詞として扱われます。一般的に **surgery** と **operation** は同じ意味で使えますが、**surgery** はより学術的・専門的な響きを持つことがあります。

2.

解答 ②

【解説】

英単語「clinic」は、「診療所、クリニック」という意味の名詞です。特定の種類の医療やアドバイスを提供する場所を指し、病院 (**hospital**) よりも小規模な施設であることが多いです。例えば、「歯科診療所」は **a dental clinic** と表現します。選択肢①「批評家」は **critic**、③「絶壁」は **cliff**、④「顧客」は **client** や **customer** です。

◆補足：**clinic** は、入院設備のない外来患者専門の医療施設を指すのが一般的です。これに対して **hospital** は入院設備があり、より広範な医療を提供する大規模な施設です。形容詞形は **clinical** で、「臨床の、病床の」という意味を持ちます。

3.

解答 ①

【解説】

英単語「oxygen」は、私たちが呼吸に使う気体である「酸素」を指す名詞です。元素記号はOで、生命維持に不可欠な物質です。例えば、「植物は酸素を放出する」のように使います。選択肢②「有機体」は organism、③「組織」は organization、④「海洋」は ocean であり、意味が異なります。

◆補足：oxygen の語源は、フランス語の oxygène で、これはギリシャ語の oxys（酸っぱい）と -genēs（生み出すもの）を組み合わせた言葉です。発見当初、酸素は酸を生み出す根源だと考えられていたことに由来します。動詞形は oxygenate（～に酸素を供給する）、形容詞形は oxygenated（酸素を含んだ）となります。関連語として、carbon dioxide（二酸化炭素）や hydrogen（水素）など、他の気体の名称も覚えておくと良いでしょう。

4.

解答 ③

【解説】

英単語「liquid」は、名詞として「液体」を意味します。水や油のように、決まった形がなく流動性のある物質の状態を指します。例えば、「この容器は液体で満たされている」のように使います。選択肢①「固体」は solid、②「気体」は gas です。これらは物質の三態としてセットで覚えるべき単語です。④「光」は light で、全く意味が異なります。

◆補足：liquid は形容詞としても使われ、「液体の」や「(資産が) 現金化しやすい、流動的な」といった意味を持ちます。後者の意味は金融の文脈で使われます。動詞形は liquefy または liquidate で、liquefy は「～を液化させる」、liquidate は「(会社など) を清算する、(資産) を現金化する」という意味になります。語源はラテン語の liquidus（流れる、澄んだ）です。

5.

解答 ④

【解説】

「～に精通する、慣れ親しむ」という意味に最も近い英語表現は④の become familiar with です。ある事柄についてよく知るようになったり、人や場所に慣れたりする過程を表します。例えば、「新しいソフトウェアに慣れる」のように使います。他の選択肢について、① be satisfied with は「～に満足している」、② be popular with は「～に人気がある」、③ be patient with は「～に対して我慢強い」という意味の熟語です。

◆補足：familiar は「よく知られた、見慣れた」という意味の形容詞です。語源は family（家族）と同じで、「家族のように身近な」というのが核となるイメージです。be familiar with A は「(人が) A

をよく知っている」という意味で、主語は人になります。一方、be familiar to A は「(物事が) A によく知られている」という意味で、主語は物事になります。この主語による使い分けが重要です。

6.

解答 ①

【解説】

「最新の」という意味に最も近い英単語は①の **latest** です。これは形容詞 **late** (遅い) の最上級で、「時間的に最も遅く現れた」ことから「最新の」という意味になります。例えば、「最新のニュース」は **the latest news** と言います。他の選択肢は、② **greatest** は **great** の最上級で「最も偉大な」、③ **least** は **little** の最上級で「最も少ない」、④ **closest** は **close** の最上級で「最も近い」を意味します。

◆**補足** : **late** の最上級には **latest** と **last** があり、意味の使い分けが重要です。**latest** は「(時間的に) 最新の」という意味で、今後もさらに新しいものが出てくる可能性があることを含意します。一方、**last** は「(順番が) 最後の」という意味で、通常、その後に続くものがないことを示します。例えば、**the latest chapter** は「(連載中の小説の) 最新の章」を指しますが、**the last chapter** は「(完結した小説の) 最終章」を指します。この違いをしっかりと理解しましょう。

7.

解答 ③

【解説】

英単語「**disadvantage**」は、「不利な点、不利益、デメリット」という意味の名詞です。ある状況をより困難にしたり、成功の可能性を低くしたりする要因を指します。例えば、「この計画の主な欠点」は **the main disadvantage of this plan** と表現します。選択肢①「不一致、意見の相違」は **disagreement**、②「災害」は **disaster**、④「発見」は **discovery** です。

◆**補足** : **disadvantage** は、接頭辞 **dis-** (反対) と **advantage** (有利な点) から成り立っており、「有利な点の反対」と理解すると覚えやすいです。対義語はもちろん **advantage** です。**at a disadvantage** (不利な立場で) という前置詞句もよく使われます。

8.

解答 ②

【解説】

「応答する、反応する」という意味に最も近い英単語は②の **respond** です。質問や刺激に対して、言葉や行動で応えることを指します。**respond to ~** の形で使われることが多いです。例えば、「そのメールにすぐに返信してください」のように使います。他の選択肢について、① **correspond** は「一致す

る、文通する」、③ **suspend** は「～を一時中断する、つるす」、④ **depend (on ～)** は「(～に) 頼る、～次第である」という意味の動詞です。

◆**補足**：名詞形は **response** (応答、反応) です。類義語の **reply** は主に言葉による「返事」を指しますが、**respond** は言葉だけでなく、行動や身体的な反応など、より広い意味での「応答」を含みます。形容詞形は **responsive** (よく反応する、すぐに応じる) です。語源はラテン語の **re-** (再び、返して) + **spondere** (約束する) で、「約束を返す」ことから「応答する」という意味になっています。

9.

解答 ④

【解説】

「解決策、解答」という意味に最も近い英単語は④の **solution** です。問題や困難な状況を解決するための方法や、問いに対する答えを指します。例えば、「問題に対する簡単な解決策はない」のように使います。他の選択肢について、① **pollution** は「汚染」、② **revolution** は「革命」、③ **population** は「人口」という意味の名詞です。

◆**補足**：**solution** は動詞 **solve** (～を解決する) の名詞形です。また、化学の分野では「溶液、水溶液」という意味でも使われます。この意味も重要なので覚えておきましょう。コロケーションとしては、"**find a solution to a problem**" (問題の解決策を見つける) が頻出です。"**a practical solution**" (実用的な解決策)、"**a simple solution**" (簡単な解決策) のように、様々な形容詞と共に使われます。

10.

解答 ②

【解説】

英単語「**function**」は、名詞として「機能、働き、役割」という意味で使われるのが最も一般的です。機械や器官、制度などが本来持っている目的や役割を指します。例えば、「このアプリの主な機能」は **the main function of this app** と表現します。選択肢はスペルや発音が似ていますが、①「小説」は **fiction**、③「部分、分数」は **fraction**、④「摩擦」は **friction** であり、全く意味の異なる単語です。

◆**補足**：**function** は動詞としても使われ、その場合は「(機械などが) 機能する、働く」という意味になります。例えば "**My computer is not functioning properly.**" (私のコンピューターは正常に機能していない) のように使います。この意味では **work** とほぼ同じように使えますが、**function** の方がやや硬い表現です。また、数学の「関数」や、社会的な「催し、イベント」という意味もあります。形容詞形は **functional** (機能的な) です。

11.

解答 ④

【解説】

「均衡、つり合い」という意味に最も近い英単語は④の **balance** です。複数の力が等しくなって安定している状態や、物事の調和がとれている状態を指します。例えば、「仕事と私生活のバランス」は **work-life balance** と言います。他の選択肢について、① **absence** は「不在、欠席」、② **violence** は「暴力」、③ **silence** は「沈黙、静けさ」を意味する名詞です。

◆**補足**：**balance** は動詞としても使われ、「～のバランスをとる」という意味になります。重要なコロケーションとして "**keep a balance**" (バランスを保つ)、"**lose one's balance**" (バランスを崩す)、"**strike a balance**" (うまくバランスをとる) などがあります。また、銀行口座の「残高」という意味も重要です (**bank balance**)。語源はラテン語の **bilanx** (二つの皿を持つ天秤) に由来しており、天秤が釣り合っているイメージを持つと理解しやすいです。

12.

解答 ④

【解説】

「利益、恩恵」という意味に最も近い英単語は④の **benefit** です。ある行動や状況から得られる良い結果や利点を指します。例えば、「運動には多くの健康上の利益がある」のように使います。他の選択肢について、① **belief** は「信念、信じること」、② **behalf** は通常 **on behalf of** ～ (～を代表して) の形で使われる名詞、③ **basket** は「かご」を意味します。

◆**補足**：**benefit** は動詞としても使われ、「～のためになる」や「(～から) 利益を得る」(**benefit from** ～) という意味になります。形容詞形は **beneficial** (有益な) です。語源はラテン語の **bene** (良く) + **facere** (行う) で、「良い行い」というのが核となるイメージです。類義語の **profit** は主に金銭的な「利益、儲け」を指すのに対し、**benefit** は金銭的かどうかにかかわらず、より広い意味での「恩恵、便益」を指します。

13.

解答 ③

【解説】

「心に描く像、印象」という意味に最も近い英単語は③の **image** です。写真や絵のような具体的な「像」だけでなく、「世間的なイメージ」や「心象」といった抽象的な意味でも広く使われます。例えば、「企業のイメージを向上させる」は **improve the company's image** と言います。他の選択肢について、① **purpose** は「目的、意図」、② **knowledge** は「知識」、④ **surface** は「表面、外見」を意味し、いずれも文脈に合いません。

◆**補足**：**image** は動詞 **imagine** (想像する) や名詞 **imagination** (想像力) と関連が深い単語です。語源はラテン語の **imago** (像、似姿) に由来します。IT 分野では、コンピュータの画面に表示される「画像」も **image** と呼ばれます。"**a positive image**" (良いイメージ)、"**a negative image**" (悪いイメージ)、"**corporate image**" (企業イメージ) などのコロケーションを覚えておくと便利です。

14.

解答 ④

【解説】

英単語「attractive」は、「魅力的な、人を引きつける」という意味の形容詞です。人の外見だけでなく、物や考え、提案などが魅力的である場合にも広く使われます。例えば、「魅力的な申し出」は an attractive offer と言います。選択肢①「効果的な」は effective、②「攻撃的な」は aggressive、③「代替りの」は alternative が対応する単語であり、意味が異なります。

◆補足：attractive は、動詞 attract（～を引きつける、魅了する）の形容詞形です。名詞形は attraction（魅力、引きつけること、名所）です。ラテン語の ad-（～の方へ）+ trahere（引く）が語源で、「～の方へ引く」というのが核となるイメージです。類義語の charming は主に人の性格や態度が「愛嬌のある、感じの良い」ことを表し、appealing は人の心に「訴えかける」ような魅力を指します。

15.

解答 ④

【解説】

英語表現「on top of ～」は、文字通り「～の頂上で」という意味もありますが、熟語として「～に加えて、～の上にさらに」という意味で頻繁に使われます。特に、好ましくない事柄が次々と重なるような文脈で用いられることが多いです。例えば、「仕事が忙しい上に、彼は病気になった」のように使います。選択肢①は文字通りの意味、②「～の代わりに」は instead of ～、③「～の下で」は under ～ が対応します。

◆補足：「～に加えて」という意味では in addition to ～ が一般的ですが、on top of ～ は、積み重なる負担や問題といったネガティブなニュアンスを伴うことが多いのが特徴です。また、「(状況など)を把握して、管理して」という意味で be on top of a situation のように使われることもあります。

16.

解答 ④

【解説】

英語表現「for one's own good」は、「(人) 自身のために、～のためを思って」という意味です。相手が嫌がることでも、その人の利益を考えて何かをしたり言ったりする際に使われます。one's の部分には my, your, his などの所有格が入ります。例えば、「君のためを思って言っているんだ」は I'm telling you this for your own good. と表現します。選択肢①「～の代わりに」は in place of ～、②「～のおかげで」は thanks to ～、③「～の観点から」は from the viewpoint of ～ などが対応します。

◆補足：この表現は、しばしば親が子供に、あるいは上司が部下に何かを諭すような、少し押し付けがましいニュアンスで使われることもあります。good は名詞で「利益、善」を意味し、own は「自分自身の」という強調の形容詞です。

17.

解答 ③

【解説】

英語表現「not to mention ～」は、「～は言うまでもなく、～に加えて」という意味の熟語です。すでに述べた事柄に、さらに重要な情報や強調したい情報を付け加える際に使われます。例えば、「彼は頭が良く、スポーツも万能で、その上ハンサムだ」のような文脈で使われます。選択肢①「～を考慮する」とは considering ～、②「～にもかかわらず」は in spite of ～、④「～の代わりに」は instead of ～ が対応する表現です。

◆補足：not to mention ～ は、let alone ～ とほぼ同じ意味で使われます。let alone ～ は、特に否定文の後で「～はなおさらだ」という意味で使われることが多いです。例えば、"He can't even ride a bicycle, let alone a motorcycle."（彼は自転車にさえ乗れないのだから、バイクはなおさら無理だ）のように使います。mention（～に言及する）を否定する形ですが、「言及するまでもないほど明らかだ」というニュアンスから現在の意味になっています。

18.

解答 ④

【解説】

「栄養、栄養学」という意味に最も近い英単語は④の nutrition です。食物を摂取し、生命を維持するプロセス全体や、栄養に関する科学的な学問分野を指します。例えば、「バランスの取れた栄養」は balanced nutrition と言います。他の選択肢について、① tradition は「伝統、しきたり」、② solution は「解決策」、③ reputation は「評判、名声」を意味する名詞です。

◆補足：nutrition とよく似た単語に nutrient（栄養素）があります。nutrient はタンパク質やビタミンといった個別の「栄養成分」を指す可算名詞であるのに対し、nutrition は栄養摂取という概念や学問を指す不可算名詞です。この違いをしっかりと区別することが重要です。形容詞形は nutritious（栄養のある）で、"nutritious food"（栄養価の高い食べ物）のように使われます。栄養士は nutritionist と呼ばれます。

19.

解答 ③

【解説】

英単語「**medical**」は、「医療の、医学の」という意味の形容詞です。病気の治療や健康に関する分野を指します。例えば、「医療機関」は **a medical institution**、「医療保険」は **medical insurance** と表現します。選択肢①「中世の」は **medieval**、②「奇跡的な」は **miraculous**、④「金属の」は **metallic** が対応する単語であり、意味が異なります。

◆**補足**：**medical** は、名詞 **medicine**（薬、医学）の形容詞形です。語源はラテン語の **medicus**（医者）に由来します。関連語として、**medication**（薬、薬剤）、**medicare**（高齢者医療保険制度）などがあります。"medical care"（医療）、"medical treatment"（医療処置）、"medical checkup"（健康診断）などのコロケーションは頻出なので、セットで覚えておきましょう。

20.

解答 ④

【解説】

「～で重要な役割を果たす」という意味に最も近い英語表現は④の **play an important role in** です。ある物事が、特定の状況や結果に対して大きな影響力や機能を持つことを示します。例えば、「ビタミンは健康において重要な役割を果たす」のように使われます。他の選択肢について、① **take part in** は「～に参加する」、② **get in the way of** は「～の邪魔をする」、③ **make fun of** は「～をからかう」という意味の熟語です。

◆**補足**：この表現の **role** は「役割、役」という意味の名詞です。**important** の代わりに、**vital**（不可欠な）、**major**（主要な）、**key**（鍵となる）、**significant**（重要な）などの形容詞もよく使われ、役割の重要度を強調します。また、**role** を **part** に変えて **play a part in** ～ とすることも可能ですが、**play a role in** ～の方がより一般的で、重要性を強調するニュアンスが強いです。

21.

解答 ④

【解説】

英単語「**eyesight**」は、「視力、見る能力」という意味の名詞です。物がどの程度よく見えるかという能力を指します。例えば、「彼の視力は衰え始めている」は **His eyesight is beginning to fail.** と表現します。選択肢①「まなざし」は **gaze** や **look**、②「景色」は **scenery** や **view**、③「洞察力」は **insight** であり、意味が異なります。

◆**補足**：**eyesight** は、**eye**（目）と **sight**（視覚、光景）という二つの単語が組み合わさってできています。**good eyesight**（良い視力）や **poor eyesight**（悪い視力）のように、状態を表す形容詞と共に使われることが一般的です。**lose one's eyesight**（視力を失う）という表現も重要です。**vision** も「視力」という意味で使えますが、将来の「展望」や「幻覚」など、より広い意味を持ちます。

22.

解答 ④

【解説】

英語表現「to one's surprise」は、「(人) が驚いたことに」という意味です。予期せぬ出来事が起こったときの話し手の感情を表す副詞句で、文頭や文末で使われます。one's の部分には my, his, her などの所有格が入ります。例えば、「驚いたことに、彼は試験に合格した」は To my surprise, he passed the exam. と表現します。選択肢①「喜んだことに」は to one's joy、②「残念なことに」は to one's regret、③「安心したことに」は to one's relief となります。

◆補足：この "to one's 感情名詞" の形は、話し手の感情を簡潔に表現するのに便利なイディオムです。surprise (驚き) の部分を、delight (大喜び)、disappointment (失望)、annoyance (いらだち) など様々な感情を表す名詞に入れ替えることで、多様な表現が可能になります。

23.

解答 ③

【解説】

英単語「symptom」は、名詞として「(病気の) 症状」という意味で最もよく使われます。病気や問題が存在することを示す、体や心に現れる変化や兆候を指します。例えば、「熱は風邪の一般的な症状だ」のように使います。選択肢①「同情」は sympathy、②「交響曲」は symphony、④「象徴」は symbol であり、意味が異なります。

◆補足：symptom は、医学的な文脈以外にも、社会問題などの「兆候」を表すために比喩的に使われることがあります。例えば、"Rising unemployment is a symptom of the economic recession." (失業率の上昇は経済不況の兆候だ) のように使います。語源はギリシャ語の syn- (共に) + ptein (落ちる) で、「共に降りかかるもの」というイメージから現在の意味になっています。

24.

解答 ④

【解説】

「～を繰り返す」という意味に最も近い英単語は④の repeat です。同じ行動や発言などを再び行うことを指します。例えば、「同じ間違いを繰り返さないでください」のように使います。他の選択肢は、① defeat が「～を打ち負かす」、② compete が「競争する」、③ complete が「～を完了する」という意味で、スペルは似ていますが全く異なる動詞です。

◆補足：名詞形は repetition (繰り返し) です。副詞の repeatedly は「繰り返し、何度も」という意味でよく使われます。語源はラテン語の re- (再び) + petere (求める、襲う) で、「再び求める」ことから「繰り返す」という意味に発展しました。日常生活では、聞き取れなかった相手の言葉に対して "Could you repeat that?" (もう一度言っていただけますか?) のように頻繁に使われる重要な動詞です。

25.

解答 ②

【解説】

英語表現「turn out to be 〜」は、「(結局) 〜だと判明する、〜という結果になる」という意味です。予想外の事実が明らかになったり、予期せぬ結末に至ったりしたことを示します。例えば、「その噂は真実だと判明した」は The rumor turned out to be true. と表現します。選択肢①「〜に変わる」は turn into 〜、③「〜に頼る」は turn to 〜、④「〜を断る」は turn down 〜 が対応します。

◆補足：turn out の後には to be が省略されることもあります（例：The weather turned out fine. 天気は晴れになった）。また、turn out that ... の形で「…ということが判明する」という使い方もされます。

26.

解答 ①

【解説】

「(食べ物) を消化する」という意味に最も近い英単語は①の digest です。食べたものを体内で分解し、栄養を吸収するプロセスを指します。例えば、「この食べ物は消化しにくい」のように使います。他の選択肢について、② swallow は「〜を飲み込む」、③ chew は「〜を噛む」、④ consume は「〜を消費する、食べる」という意味の動詞で、消化の前段階の行為を表します。

◆補足：digest は比喩的に「(情報など) をよく理解する、消化する」という意味でも使われます。名詞形は digestion (消化) と digest (要約) の二つがあります。形容詞形は digestible (消化しやすい) です。語源はラテン語の di- (分離して) + gerere (運ぶ) で、「別々の場所に運び去る」というイメージから「消化する」という意味になりました。

27.

解答 ①

【解説】

「〜を修復する、回復させる」という意味に最も近い英単語は①の restore です。古い建物や美術品などを元の状態に戻したり、失われた健康や秩序などを取り戻したりする際に使われます。例えば、「古い教会を修復する」のように用います。他の選択肢について、② release は「〜を解放する、発売する」、③ remove は「〜を取り除く、除去する」、④ replace は「〜に取って代わる、〜を取り替える」という意味の動詞です。

◆補足：名詞形は restoration (修復、回復) です。語源はラテン語の re- (再び) + statuere (建てる、置く) で、「再び建てる」というのが核となるイメージです。類義語の repair は、壊れた機械などを「修理する」という日常的な意味で使われるのに対し、restore は歴史的価値のあるものなどを、元の姿に忠実に「修復する」という、より専門的なニュアンスを持つことが多いです。

28.

解答 ③

【解説】

「～を取り除く、処分する」という意味に最も近い英語表現は③の **get rid of** です。不要な物や好ましくない人、状況などを自分の周りからなくすことを表す口語的な表現です。例えば、「古い家具を処分する必要がある」のように使います。他の選択肢について、① **get along with** は「～と仲良くやる」、② **get over** は「～を乗り越える、克服する」、④ **get used to** は「～に慣れる」という意味の熟語です。

◆補足：類義語の **remove** は **get rid of** よりもフォーマルな表現です。**eliminate** は「完全に排除する、根絶する」という、さらに強い意味を持ちます。**rid** はもともと「取り除く」という意味の動詞で、**get** を伴うことで「～を取り除かれた状態を得る」→「～を取り除く」という意味になります。

29.

解答 ①

【解説】

「～を探検する、調査する」という意味に最も近い英単語は①の **explore** です。未知の土地や場所を訪れて調べることや、あるテーマや可能性について深く探求することを指します。例えば、「新しい可能性を探る」は **explore new possibilities** と表現します。他の選択肢は、② **explain** が「～を説明する」、③ **explode** が「爆発する」、④ **expose** が「～をさらす、暴露する」という意味で、スペルは似ていますが全く異なる単語です。

◆補足：名詞形は **exploration**（探検、探求）で、**space exploration**（宇宙探査）のように使われます。探検家は **explorer** と言います。語源はラテン語の **ex-**（外へ）＋**plorare**（叫ぶ）で、元々は狩人が獲物を見つけるために叫ぶ様子を表していたとされています。そこから「探し求める」という意味に発展しました。物理的な探検だけでなく、"**explore a topic**"（テーマを探求する）のように、知的な探求にも使われるのがポイントです。

30.

解答 ①

【解説】

「～を設立する、創立する」という意味に最も近い英語表現は①の **set up** です。会社や組織、委員会などを新たに立ち上げることを指します。例えば、「彼は自分の会社を設立した」のように使います。他の選択肢について、② **give up** は「～をあきらめる」、③ **put up** は「～を建てる、掲げる」、④ **turn up** は自動詞で「現れる、出てくる」という意味の句動詞です。

◆補足：**set up** は多義的な句動詞で、「～を設立する」の他に、「(コンピュータなど)を設定する」「(罫など)を仕掛ける」「(テントなど)を組み立てる」といった多くの意味があります。文脈に応じ

て意味を判断する必要があります。類義語の **establish** も「～を設立する」という意味ですが、**set up** よりもフォーマルで、より大規模で永続的な組織に使われることが多いです。

31.

解答 ②

【解説】

「～を推薦する、勧める」という意味に最も近い英単語は②の **recommend** です。人や物、行動などが良いものであると伝え、他の人にそれを試すよう促す行為を指します。例えば、「この本を読むことを勧めます」のように使います。他の選択肢について、① **represent** は「～を代表する、表す」、③ **require** は「～を必要とする、要求する」、④ **reserve** は「～を予約する、取っておく」という意味の動詞です。

◆**補足**：**recommend** の語法には注意が必要です。**recommend A to B** (A を B に勧める)、**recommend doing** (～することを勧める)、**recommend that S (should) do** (～が…することを勧める) といった形をとります。**suggest** と同様に、**that** 節の中では動詞の原形が使われることが多いです。名詞形は **recommendation** (推薦、勧告) です。語源は **re-** (再び) + **commend** (称賛する、委ねる) で、「重ねて称賛する」というイメージから現在の意味につながっています。

32.

解答 ③

【解説】

英単語「**memory**」は、名詞として「記憶、記憶力」や「思い出」といった意味で使われます。過去の出来事を心に留めておく能力や、その内容自体を指します。例えば、「子どもの頃の良い思い出」は **a happy memory from my childhood** と表現します。選択肢①「方法」は **method**、②「多数」は **majority**、④「瞬間」は **moment** が対応する単語です。

◆**補足**：**memory** は動詞 **memorize** (～を記憶する、暗記する) や、形容詞 **memorable** (記憶に残る、忘れられない) と関連しています。また、コンピュータの「記憶装置 (メモリー)」という意味でも広く使われます。コロケーションとして "**have a good memory**" (記憶力が良い)、"**have a bad memory**" (記憶力が悪い)、"**in memory of** ～" (～を追悼して、～の記念に) などを覚えておくとう便利です。語源はラテン語の **memoria** (記憶) です。

33.

解答 ②

【解説】

「血液」という意味に最も近い英単語は②の **blood** です。動物の体内を循環し、酸素や栄養を運ぶ赤い液体を指します。例えば、「血液型」は **blood type** と言います。他の選択肢は発音やスペルが似て

いますが、① flood は「洪水」、③ mud は「泥」、④ food は「食べ物」という意味で、全く異なります。

◆補足：blood に関連する動詞は bleed（出血する）です。形容詞は bloody で、「血まみれの」という意味の他、イギリス英語では「ひどい、ひどく」といった意味の俗語としても使われます。"blood pressure"（血圧）や "blood vessel"（血管）、"blood donation"（献血）など、医療や健康に関する重要なコロケーションが多くあります。

34.

解答 ①

【解説】

英語表現「might as well do」は、「～する方がよい、～したっていいだろう」という意味です。他に良い選択肢がないため、消極的ながら何かをすることを提案したり、決心したりする際に使われます。

「どうせ暇なら、散歩でもしたほうがいい」のような状況で用いられます。選択肢②「～すべきだったのに」は should have done、③「～するに違いない」は must do、④「～するはずがない」は cannot do などが対応します。

◆補足：「どうせ～だから」という諦めのニュアンスを含むのが特徴で、強い推奨を表す had better do（～しなさい）とは異なります。また、might as well A as B の形で「B するくらいなら A する方がましだ」という比較の構文も重要です。例えば、You might as well throw your money away as lend it to him.（彼に金を貸すくらいなら、捨ててしまうほうがましだ）のように使います。

35.

解答 ④

【解説】

「（努力して）～を得る」という意味に最も近い英単語は④の gain です。知識、経験、体重、支持など、望ましいものを努力によって徐々に手に入れるというニュアンスがあります。例えば、「経験を得る」は gain experience と表現します。他の選択肢について、① earn は「（働いてお金などを）稼ぐ」、② win は「（競争や試合に）勝つ、～を勝ち取る」、③ obtain は「～を入手する」というややフォーマルな言葉です。

◆補足：gain は、特に抽象的なものを時間をかけて得る場合に適した単語です。名詞としても「利益、増加」という意味があり、"No pain, no gain."（苦勞なくして利益なし）ということわざは有名です。

36.

解答 ③

【解説】

英単語「**taste**」は、名詞として「味、味覚」という意味で最も一般的に使われます。食べ物や飲み物が舌で感じられる感覚を指します。例えば、「このスープは奇妙な味がする」のように使います。また、服や音楽などに対する「好み、センス」という意味でも使われます。選択肢①「速さ」は **speed**、②「検査」は **test**、④「仕事」は **task** であり、意味が異なります。

◆**補足**：**taste** は動詞としても使われ、「～の味がする」や「～を味わう」という意味になります。形容詞形は **tasteful**（趣味の良い）と **tasteless**（味のない、悪趣味な）があり、どちらも食べ物の味と個人のセンスの両方の意味で使われます。コロケーションとして "**a matter of taste**"（好みの問題）や "**have good taste in** ～"（～の趣味が良い）などの表現を覚えておくくと便利です。

37.

解答 ②

【解説】

「A が～するのを許す」または「A が～することを可能にする」という意味に最も近い表現は②の **allow A to do** です。この形は第五文型（S+V+O+C）をとり、目的語 A が補語（to 不定詞）の動作をすることを「許す」という関係を示します。人だけでなく、物が主語になることも多く、その場合は「（物が）A が～するのを可能にする」と訳すと自然です。例えば、「このチケットは私たちが博物館に入ることを可能にする」のように使われます。① **force A to do** は「A に～することを強制する」、③ **expect A to do** は「A が～することを期待する」、④ **remind A to do** は「A に～することを思い出させる」という意味で、それぞれ動詞の意味が全く異なります。

◆**補足**：**allow** の類義語に **permit** と **let** があります。**permit** は **allow** よりもフォーマルな言葉で、規則や法律によって公式に「許可する」というニュアンスが強いです。**let** は最も口語的で、強制力のなさや非公式な場面での「させてあげる」という軽い許可を表します。**let** は原形不定詞をとる使役動詞であるため、**let A do** の形になる点も大きな違いです。**allow** の名詞形は **allowance** で、「お小遣い」や「手当」という意味でよく使われます。

38.

解答 ③

【解説】

英単語「**direction**」は、名詞として「方向、方角」という意味で最もよく使われます。進むべき向きや、物が向いている方角を指します。例えば、「正しい方向に」は **in the right direction** と言います。また、複数形の **directions** は「道順」や「指示、説明書」という意味で頻繁に使われます。選択肢①「決心」は **decision**、②「記述」は **description**、④「辞書」は **dictionary** であり、意味が異なります。

◆**補足**：**direction** は、動詞 **direct**（～を指揮する、～を向ける）の名詞形です。**direct** は形容詞として「直接の」という意味も持ちます。**director** となると「監督、指導者」を意味します。ラテン語の **di-**（分離して）+ **regere**（導く、支配する）が語源で、「まっすぐに導く」というイメージが中心にあります。これが「方向」や「指示」という意味につながっています。

39.

解答 ④

【解説】

「～を助ける、手伝う」という意味に最も近い英単語は④の **assist** です。よりフォーマルな響きを持つ単語で、特に仕事や公的な場面で使われることが多いです。他の選択肢は、① **consist (of ～)** が「～から成る」、② **insist (on ～)** が「～を強く主張する」、③ **resist** が「～に抵抗する」という意味で、スペルは似ていますが全く異なる動詞です。

◆**補足**：**assist** は、類義語の **help** よりもフォーマルな単語です。**help** が一般的な「助ける」を表すのに対し、**assist** は補助的な立場で専門的な手助けをする、というニュアンスを持つことがあります。名詞形は **assistance** (援助、支援) と **assistant** (助手、アシスタント) の二つがあり、文脈によって使い分けが必要です。語源はラテン語の **ad-** (～のそばに) + **sistere** (立つ) で、「そばに立つ」ことから「助ける」という意味になっています。

40.

解答 ④

【解説】

「～に気づいている、～を知っている」という意味に最も近い英単語は④の **aware** です。**be aware of ～** や **be aware that ...** の形で使われ、ある事実や状況を認識している状態を表します。他の選択肢は、いずれも **a-** で始まる叙述用法の形容詞ですが、① **awake** は「目が覚めて」、② **afraid** は「恐れて、心配して」、③ **ashamed** は「恥じて」という意味で、文脈に合いません。

◆**補足**：**aware** は「気づいている」という状態を表すのに対し、類義語の **conscious** は「意識している」という、よりはっきりとした心の働きを指します。名詞形は **awareness** (気づいていること、意識) で、"**raise awareness of ～**" (～に対する意識を高める) という形で社会問題などについて語る際によく使われます。対義語は **unaware** (気づかない) です。

41.

解答 ③

【解説】

英単語「**smoothly**」は、「滑らかに、順調に」という意味の副詞です。物事が障害や問題なく、スムーズに進む様子を表します。例えば、「計画は順調に進んだ」は **The plan went smoothly.** と表現します。選択肢①「ゆっくりと」は **slowly**、②「突然に」は **suddenly**、④「強く」は **strongly** が対応する単語です。

◆補足：smoothly は、形容詞 smooth（滑らかな、順調な）から派生した副詞です。run smoothly（順調に運営される）や proceed smoothly（順調に進む）のように、物事の進行状況を表す動詞と共によく使われます。

42.

解答 ④

【解説】

「影響」という意味に最も近い英単語は④の influence です。人や物事の行動、思考、発展などに変化を及ぼす力や効果を指します。例えば、「親の子供への影響」は parental influence on children と表現します。他の選択肢について、① audience は「聴衆、観客」、② silence は「沈黙」、③ violence は「暴力」を意味する名詞です。

◆補足：influence は動詞としても使われ、「～に影響を与える」という意味になります。have an influence on ～ という形で名詞として使うこともできます。類義語の effect は、ある原因によって直接的にもたらされる「結果、効果」を指すのに対し、influence は、直接的・間接的にじわじわと及ぼす「影響力」というニュアンスが強いです。形容詞形は influential（影響力のある）です。

43.

解答 ③

【解説】

英語表現「consist of ～」は、「～から成る、～で構成されている」という意味です。全体がどのような部分や要素からできているかを示す際に使われます。この表現は受け身の形にはせず、能動態で使います。例えば、「その委員会は 10 人のメンバーから成る」のように使います。選択肢①「～に頼る」は depend on ～、②「～を主張する」は insist on ～、④「～に集中する」は concentrate on ～ が対応する表現です。

◆補足：consist は前置詞によって意味が変わる重要な動詞です。consist of ～（～から成る）の他に、consist in ～（～に存在する、本質がある）や consist with ～（～と一致する、両立する）といった使い方があります。特に consist in ～ は、「幸福は満足にある（Happiness consists in contentment.）」のように、抽象的な概念を説明する際に見られる表現です。語源はラテン語の con-（共に）+ sistere（立つ）で、「共に立つ」ことから「構成される」という意味になっています。

44.

解答 ②

【解説】

「痛み、苦痛」という意味に最も近い英単語は②の **pain** です。身体的な痛みだけでなく、精神的な苦痛を表すのにも使われます。例えば、「激しい痛み」は **a sharp pain** と表現します。他の選択肢について、① **rain** は「雨」、③ **gain** は「利益、増加」、④ **stain** は「しみ、汚れ」という意味の名詞です。

◆補足：形容詞形は **painful**（痛みを伴う、つらい）、**painlessness**（痛みのない）です。動詞としても「～を痛ませる」という意味がありますが、**hurt** の方が一般的です。**ache** も「痛み」を意味しますが、**ache** は鈍く続く痛みを指すことが多いのに対し（例: **headache, stomachache**）、**pain** はより一般的で、鋭い痛みも含む広い概念です。**"No pain, no gain."**（苦勞なくして利益なし）は有名なことわざです。

45.

解答 ②

【解説】

「(変化・治療など好ましくないこと)を経験する、受ける」という意味に最も近い英単語は②の **undergo** です。手術や検査、厳しい訓練、大きな変化など、人が受動的に経験する事柄を目的語にとります。例えば、「彼は心臓の手術を受けた」のように使います。他の選択肢について、① **understand** は「～を理解する」、③ **undertake** は「(仕事や責任)を引き受ける」、④ **overcome** は「(困難など)を克服する」という意味の動詞です。

◆補足：**undergo** の過去形は **underwent**、過去分詞形は **undergone** です。不規則動詞なので注意しましょう。**undergo surgery**（手術を受ける）、**undergo treatment**（治療を受ける）、**undergo changes**（変化を経験する）などのコロケーションが重要です。類義語の **experience** は、良いことにも悪いことにも使える一般的な「経験する」です。

46.

解答 ④

【解説】

「例外」という意味に最も近い英単語は④の **exception** です。規則や一般的なパターンから外れている人や物事を指します。例えば、「例外なく」は **without exception** と表現します。他の選択肢について、① **expression** は「表現」、② **explanation** は「説明」、③ **exhibition** は「展覧会、展示」という意味の名詞です。

◆補足：**exception** は、前置詞・動詞の **except**（～を除いて）から派生した名詞です。熟語 **"with the exception of ～"**（～は例外として）や **"make an exception"**（例外を設ける）も重要です。形容詞形は **exceptional** で、「例外的な」の他に「特に優れた」という意味も持ちます。

47.

解答 ③

【解説】

英語表現「ought to do」は、「～すべきである、～するのが当然だ」という意味の助動詞です。道徳的な義務や、そうすることが正しいと考えられる行為を表します。例えば、「お年寄りには親切にすべきだ」のように使います。選択肢②「～しなければならない」の **have to do** は、より客観的で強制力のある義務を表します。①「～できる」は **be able to do**、④「～かもしれない」は **may do** が対応します。

◆補足：ought to do は should do とほぼ同じ意味で使われますが、ought to の方がやや硬い響きがあり、道徳的な正しさを強調するニュアンスが強いです。否定形は **ought not to do** となり、to の前に not を置く点に注意が必要です。近年では should の方が一般的に使われる傾向にあります。

48.

解答 ②

【解説】

英語表現「carbon dioxide」は、「二酸化炭素」を指す名詞です。化学式は CO_2 で、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの一つとして知られています。例えば、「工場は大量の二酸化炭素を排出する」のように使います。選択肢①「一酸化炭素」は **carbon monoxide**、③「炭水化物」は **carbohydrate**、④「炭素繊維」は **carbon fiber** であり、いずれも carbon を含む言葉ですが、指すものは異なります。

◆補足：carbon は「炭素」を意味します。接頭辞 di- は「2」を意味し、oxide は「酸化物」を意味します。つまり、di- + oxide で「二酸化物」となり、carbon dioxide で「炭素の二酸化物」＝「二酸化炭素」となります。同様に、接頭辞 mono- は「1」を意味するため、carbon monoxide は「一酸化炭素」となります。こうした接頭辞の意味を知っていると、化学関連の英単語が覚えやすくなります。

49.

解答 ④

【解説】

「専門家」という意味に最も近い英単語は④の **expert** です。ある特定の分野において、深い知識や優れた技術を持つ人を指します。例えば、「経済学の専門家」は **an expert in economics** と表現します。他の選択肢について、① **export** は「輸出」、② **effort** は「努力」、③ **editor** は「編集者」という意味の名詞です。

◆補足：expert は形容詞としても使われ、「熟練した、専門的な」という意味を持ちます（例：expert advice 専門的な助言）。関連する名詞として **expertise** /ˌɛkspɜːrˈtiːz/ があり、これは「専門知識、専門技術」そのものを指します。

50.

解答 ②

【解説】

「少しずつ」という意味に最も近い英語表現は②の **little by little** です。物事が徐々に、段階的に変化していく様子を表します。例えば、「彼の健康は少しずつ回復した」のように使います。他の選択肢について、① **all at once** は「一度に、突然」、③ **sooner or later** は「遅かれ早かれ、いつかは」、④ **once in a while** は「時々」という意味の熟語です。

◆補足：類義語として **gradually** があり、**little by little** よりもフォーマルな表現です。**step by step** は「一步一步、着実に」という意味で、計画的に段階を踏むニュアンスが強いです。**bit by bit** も「少しずつ」という意味で、**little by little** とほぼ同じように使えます。
